



知立市長
林 郁夫

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、さわやかな平成29年の初春を迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、市政の推進にあたり、ご理解とご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、昨年、全国33団体の「山・鉾・屋台行事」の一つとして「知立の山車文楽とからくり」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。山車の上で文楽やからくりが上演されることは、全国でもきわめて珍しく、平成2年に国の重要無形民俗文化財に指定、そして、この度の

ユネスコ無形文化遺産への登録になりました。これもひとえに、江戸時代より永きにわたり、地域の皆様方が受け継いでくださってききたこと、世界に評価されたものと存じます。

また、知立市の花であり、愛知県の花でもあります「かきつばた」。平安時代の『伊勢物語』において、在原業平が八橋の地で「かきつばた」の文字を折句に歌詠みをしたことで、全国に知れ渡りました。以来、更科日記や十六夜日記の中にも、景勝地として知られた八橋を訪れた様子がうかがわれます。また、尾形光琳の代表作である『燕子花図』屏風は、八橋のかきつばたをもとに描いたものとされています。国宝であるこの作品は、五千円紙幣にも描かれており、今なお、多くの皆様に八橋のかきつばたへお越しいただいております。地域の皆様方が維持して下さっているからこそであります。知立の山車文楽とからくり、かきつばたをは

じめとする知立の歴史・文化は、永きにわたり地域の皆様方が受け継いでくださっている知立の財産です。

そして、こうした財産を受け継いだ今こそ、新しい知立のかたちを創っていくときでもあります。訪れたいまち・住みよいまちを目指し、現在、鉄道高架事業、再開発事業など知立駅周辺整備事業が行われており、知立市がますます魅力あるまちへと変貌してまいります。伝統文化をしっかりと継承していくこと、そして、新たなものを創造していくことの両面を併せたまちづくりが、今後の知立市にとって大切なことと考えております。

本年も、皆様方にとりまして、より素晴らしい年になりますよう祈念し、併せて、より住みよい知立市づくりのために、更なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成二十九年 新年のごあいさつ



知立市議会議員
石川 信生

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様には、平成29年の輝かしい新春を、ご壮健のうちにお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、市議会に対し、格別のご理解、ご指導、ご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年一年を振り返って見ますと、リオデジャネイロオリンピックにおける日本勢の活躍は、見事なものでありました。一方、世界中が異常気象に見舞われ、観測を始めて以来の未曾有の現象が多く発生し、熊本の震災などでは防災に対しても、見直しなどを考えさせられる

ことが多くありました。また、イギリスのEU離脱問題やアメリカ大統領選挙など日本への影響について先行き不透明なことが多く起こりました。

そのような状況下、終戦後71年が経過し、成長大型社会から成熟社会への転換が求められています。地域社会においては、少子高齢化や人口減少の問題は避けて通れないものであり、地域間の競争は、益々激化する様相を見せております。地域固有の価値や風土的、文化的多様性へと人々の関心は、高まりつつあります。昨年12月に当市の伝統文化の山車文楽とからくりが、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。これを契機として、市民全体が一致団結し、個性豊かな地域社会を形成するチャンスでもあります。

また、知立駅付近連続立体交差事業と知立駅周辺土地画整理事業の二大事業は施行の真っ

只中で正念場を迎えており、駅を中心とした夢の持てるまちづくりに向かって市が一体となって邁進しなければなりません。予想以上のスピードで進む高齢化、それに伴う医療、介護の拡充、整備が急がれ、さらに、教育、防災、防犯等の課題も多く山積してまいります。

このような現実を踏まえ、直視しながら、二元代表制のもと、市民の皆様から負託された市議会として、その役割を十二分に発揮し、議会の活性化に取り組み、皆様のご意見を反映できるように、より分かりやすい議会を目指し、安全で住みよいまちづくりに努めてまいり所存でございます。引き続きのご理解、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、幸多い良き年でありますようお祈りいたしまして、新年のあいさつといたします。